

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773100827		
法人名	医療法人 清翠会		
事業所名	まきグループホーム 3階フロア		
所在地	大阪府大阪市旭区生江2丁目14-24		
自己評価作成日	平成22年1月11日	評価結果市町村受理日	平成22年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の軽・中・重度の方が一緒に生活しておられる。円滑なコミュニケーションを図って頂けるように職員が潤滑油となるように日々配慮しています。又入居者様それぞれの出来る・出来ない事、興味の有る事・無い事を見極めて、お手伝い・レクレーションへの参加の声かけをしており、拒否のある時は無理強いないように対応の統一をしている。3Fフロアで小型犬を飼っており、入居者様も可愛がっておられ癒しとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「保健、医療、福祉を通じて地域の皆様の健康で豊かな生活を支援します」を掲げており品質目標にも組み入れ毎朝読み上げ意識の向上に努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回、近くの小学校で行われている「ふれあい祭り」に入居者様に参加して頂き、地域の方ともお話する機会がある。他の小学校で行われた盆踊りにも参加され大変喜んでいただいた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様と一緒に周辺のゴミ拾いをしたり、周辺の方々に挨拶をしたりし、地域の方々にも理解を示して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の自治会長様や民生委員の方に地域の情報をいただき、家族様には面会の時の過ごす場所についてご意見をいただき、ご希望に添えるように取り組んでいる		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度最初の運営推進会議の時、介護保健課の職員の方へ出席依頼をしたが昨年と担当者が変わっておられ一度も出席して頂けていない		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や、高齢者虐待について所内研修を行っている。事例検討でグループワークを行い多くの意見を出し合いグループ毎に発表している。出席できなかった職員には資料、発表内容をまとめ回覧し全職員が周知徹底出来るようにしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については所内研修でグループワークを行い話合っている。入浴時や更衣時はボディチェック等行っている。		

まきグループホーム(3階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内研修により話し合いや資料を各自に配布されている。入居者様の中に安心サポート様を利用している方がおられるので、金銭面については相談しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は家族様と計画担当者、管理者がご納得いかれるまで話し合いをしている。改定時は資料や家族会等で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を行い、その際アンケートを行っている。参加されなかった家族様へは郵送し無記名で返送して頂いている。質問等についてはアンケート結果と共に回答欄に記入をして家族様へ郵送している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回運営会議を開催し主任、事務長も出席している。現場の意見をまとめ提議している、議事録は施設長も閲覧している。検討事項は管理会議(月1回)の場で話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の職員に対する処遇が改善しつつある。厚労省の介護職員に対する処遇改善も適用され手当が付くようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には接遇研修を、ある程度のキャリアを重ねた者には介護研修等を行っており職員は参加している。所外研修も事務所内ホワイトボードに貼りだして参加したいと申し出がある時はシフトの調整等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークに加入し勉強会にも参加している。相互訪問は出来ない状況である。		

まきグループホーム(3階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各々の職員が新入居者様からの発言等の情報を共有する事により、何が困っているか、何が不安であるのか話し合っている。又本人様との会話の時間を計画担当者を中心に持つように心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時等に本人様はフロア等見学していたとき、管理者・計画担当者等が家族様だけとお話しする機会を持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様が介護疲れになっておられた方には取り敢えず入所して頂き、距離を置くような支援をおこない、入居者様の反応を見ながら家族様との繋がりが切れない様に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、食事片付、掃除、買い物等各々出来る事を職員と一緒にして頂いたり、スーパー銭湯等で一緒に入浴したりし、互いに支え合う関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	疎遠気味の御家族様にはこちらからご連絡する機会に利用者様の近況報告したり、家族様が疑問質問をされる時には計画担当者がお話を聞き、共に考える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所された後にご近所の方が訪ねてこられたらゆっくりと過ごして頂けるような環境を調整している。よくお買い物に行かれていた商店街にも出かけて頂くようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常時目配りしており、状況に応じて仲介したり、距離を取って頂く等の配慮をしている。着座位置については職員で意見交換しながら良好な関係を保てるようにしている。		

まきグループホーム(3階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退所となった方にもお見舞いに伺い状態をお聞きしたり、家族様のこれからの意向等をお聞きし、こちらで支援できる事には対応するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の過去の生活習慣や言動などから把握に努めているが判断が難しい事が多い。可能な限り本人様の意に添うよう職員同士意見の交換をし検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様に話しを伺い、家族様に内容の確認を行っている。家族様に確認出来ない方は、本人様の言動を情報源としサービス提供に役立てている。入居後も家族様と連携を図り、サービスに繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、心身の状態の把握に努めており、あくまでも各人の意思を尊重している。画一的な対応や共有時間の強制は行っていない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に、カンファレンスノートや個別のコメントシートに記入されている意見について話し合い、ケアプランを見直し作成している。その際は家人様の意見も取り入れている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った記録を行っている。個別の介護日誌・活動記録・カンファノート・コメントシートなどを参考にして介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の体調変化時、家族様が同行が困難な事が多く、管理者・職員が対応している。結果もすぐに電話で報告している。入院の手続きは家族様にお願いしている。		

まきグループホーム(3階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署による救急対応や避難訓練等は定期的におこなっている。地域のふれあい喫茶や盆踊り等の催し物にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム長が医師であり、2週間に1回訪問診療を実施している。かかりつけ医を希望される場合は要望にお応えし、ホーム長が情報提供書を作成している。眼科・皮膚科・耳鼻科などは適宜訪問診療が可能である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者を看護師としているので、管理者に日々の状態の報告を行い相談・指示を受けている。又訪問看護師によるサービスも導入しており、適時相談指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人なのでグループ内に病院があり、病院の相談員と連携したり、病棟の師長等と連絡を取り連携を計っている。又他病院に入院される方については看護サマリーを用意し提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用基準としては経口摂取が可能な状態としており、状態により主治医、家族、スタッフと話し合う機会を設けている。訪問看護師による点滴も施行可能で、改善の見込みがあれば、生活継続出来るように対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は随時管理者より指導を受けている。又人工呼吸の練習は毎年一度行っている。事務所内には緊急時マニュアルを常備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回マニュアルに沿って消防訓練(通報・避難・消火)を実施しており(1回は消防署職員の立会い)水消火器を借用し方法についても実践している。自治会長様や民生委員の方にも訓練の見学に来て頂いている		

まきグループホーム(3階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お部屋でゆっくりと過ごされている時はその時間を大切にしている。入室時は必ずノックをしている。体操などのレクリエーションにはご本人の意志の尊重をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者様各々と話す機会を持ち、どのような希望をもっておられるのか会話の中より察したり、状況が許す限りは買い物同行している。何事においても利用者様に判断を委ねている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大事にして個別の支援に努めている。体操・レクリエーション等への参加も意思確認をおこなっており、無理強いはしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には整容の声かけし、出来ない方には職員が行っている。職員が更衣介助必要な方に介助し易い服を着ていただくのではなく、本人様が着たい服を着用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状況に応じて調理準備(包丁でカットなど)盛り付け、食器拭き、食器かたづけ等一緒にして頂いている。食事についてはお一人お一人の好み、形態について対応できるように心掛けている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕食の間にも状況に応じてお茶等をお出ししたり、日中居室で過ごす事の多い方にはペットボトルにお茶をいれ渡している。夜間もお茶を入れ返しお渡ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きの声かけを行い誘導している。出来ない方には義歯をお預かりし職員が行っている。		

まきグループホーム(3階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ボードに排泄記録を記入し、個々の排泄リズムを把握し可能な限りトイレで排泄できるようにしている。紙パンツから布パンツに日中は履き替えて頂いている。下衣の上げ下げはできるだけ自身でお願いしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、繊維の多い食品を食べていただくようにメニュー作りに気をつけている。又食後等はトイレ誘導し排便しやすい環境作りをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数は3日に1回の実施が現状であるが汚染等があればその限りではない。入浴時間やお湯の温度についてはご本人の要望にお応えするようにしている。ホテルのお風呂にも出かけて頂き大変喜ばれた		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床も入床も利用者様それぞれのペースにあわせている。起床が遅くなった方には居室に朝食をお持ちし、気兼ねなくゆっくりと食べていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルにいれ事務所書棚に置いておき、職員が何時でも読める様にしている。身体症状の変化のある時は管理者に報告・指示を受けている。新しく薬が処方された時は様子観察が定着している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字の上手な方には歌詞を書いていたいたり、歌の好きな方には職員と歌っていたり色んな活動を各利用者様に提案提供するようにしている。誕生日にはお好きなメニューにし喜んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は近くのスーパーに毎日お買い物と一緒に出掛けて頂いていたがそのスーパーが閉店となり毎日の外出(交替)が困難となった。近くのコンビニや施設内の庭に出かけて頂き外気に触れる機会を作っている。外食の機会を多く作るようにした		

まきグループホーム(3階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様各々よりお金をお預かりし、買いたい物があると訴えられる方には職員がそこよりお金持参しコンビに等に同行し欲しい物を買って頂いているが全員は行けていないのか、実情である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという訴えには、職員が先におかけし家人様に了解を得てからお話していただくようにしている。手紙を投函したいという訴えには同行し本人様に投函して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節を感じて頂けるように、お正月、節分、お雛祭り等共有部分の飾り付けはレク委員を中心に手作りで実施している。室温、湿度に注意し冬期は加湿器を使用している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに机を4つ置き、気のあった方が一緒に過ごして頂く様に席替え等もおこなっている。又廊下にはソファを置き静かに過ごしていただけるようにも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自身の使用されていた家具や家族様の写真などをお部屋に飾っている。使い慣れた寝具も使用して頂いている方もおられる。馴染みのものがある事で安心できる環境作りに取り組んでいる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をかけご自分の居室である事がわかるようにしている。フロア・居室内共バリアフリーとなっている。刃物等の危険な物は鍵のかかる引き出しに入れ管理している。		